

# 安全区 / Nanjings

作・演出 Ayumi Dakemoto

## 登場人物・出演者

林英呈 *Lin ying cheng* リン・インチェン 中国人経済学者

かつて日本に留学し、国民党政府の役人も務めた経済学者。国民党幹部の兄から南京戦後の諜報活動を託されるが、一家は離散。自身も処刑される寸前に、逃げ出し重傷を負いながらも生き残り、自宅にたどり着いた後、下僕として田之倉に仕える。

田之倉肇 特務機関の男

上海の特務機関から、南京臨時政府に宣撫工作員として赴任する。接收された林邸に住み、林田を使って情報収集を行う。南京難民救済委員会から出された被害レポート、スマイス報告に対する反証を集めている。

林田従軍僧

日本軍に着き従う仏僧。上海事変に従軍し蘇州、無錫、南京へと部隊と共に転戦。自ら武器を持って戦うわけではないが、銃弾飛び交う戦場を走り回り兵士を鼓舞し、聖戦の目的を王道楽土と信じ浄土建設を目指している。かつて大正八年にシベリアに出兵。パルチザン戦の生き残り。

周蓮華 *Zhou Lian Hua* ゴウ・リアンファ 林英呈の妻

身重の身で南京残留。陥落後に連行された小学校からの脱出の際、英呈

と生き別れる。妹の茉莉によってその最後を見届けられる。古い伝統的な価値観の女性。

**周茉莉** *Zhou Mo Li* ゾウ・モリー 蓮華の妹

金陵女子大学の学生で抗日運動家。占領と共に悲惨な暴行を体験をし、行方不明となる。後日、衰弱しアヘン中毒となって田之倉に保護される。抗日学生のネットワークに属している。

**王飛** *Wan fei* ワン・フエイ

茉莉の友人・抗日運動の女子学生。

プロローグ・南京陥落直前 1937年 12月 8日

船の汽笛、ごうごうという揚子江の水音・埠頭に英呈が一人、手を振っている。書付をもっている。

英呈

再見！再見！一路平安！国民党万歳！ハハハ……兄を 下関<sup>シャーカン</sup>の海軍埠頭まで送りに行った。「……これより、南京を脱出する。蒋介石総統に従い漢口を目指す。お前は残り、職務を全うし、先祖の位牌を守り、家財を減らさぬようにせよ。……人を馬鹿にするにも程がある！

砲声の着弾音が城壁外、10キロ向こうで鳴り響いている。街路で王飛が叫んでいる。

王飛

對日經濟絶交（日本との經濟關係を絶交しよう）

永遠不買日貨（日本製品は二度と買わないようにしよう）

全國同胞團結（全国の同胞は團結し、）

一致武装救國（皆で武装して祖國を救おう）

打倒 日本帝國主義！（*Dadao Ribenzheng diguozhuyi!*）

茉莉が現れ、一緒にシユプレヒコールする。

「日軍 百万、既に江南を 席卷 せり、南京城は將に包圍の中にあり。日軍は抵抗者に対しては極めて峻烈にして 寛恕 せざるも無辜の民衆及び敵意なき中国軍隊に対しては寛大を以てし、これを冒さず、よって本司令官は日本軍を代表し貴軍に勧告す、即ち南京城を和平裡に開放し、しかして左記の処置に出でよ。

大日本陸軍司令官 松井 石根

二人 打倒 日本帝国主义！ (Dadao Ribenzheng diguozhuyi!)

誓死 不当 亡国奴！ (Shisi budang wanggunu!)

中国不能亡！

本勧告に対する回答は十二月十日正午 中山路 において受領すべし、若しも該指定時間内に何等の回答に接し得ざれば日本軍は已むを得ず……

茉莉、落ちて来た勧告ビラを拾う。

茉莉 「南京攻略を開始せん」

林邸。居間に妻の蓮華が蠟燭を持って現れ座る。蓮華は身重で突き出た腹が目立つ。荒い息をしつつ、恐怖を意識して抑えつつ、産着を編むことに集中している。

やがて英呈が部屋に現れる。重苦しい緊張を破る蓮華

蓮華 ……いつ発ちますの？

英呈 順番を待とう。

英呈、デスクの書類の片づけを始める。

蓮華 ……はい。

英呈 きつとその内、辞令が来る。南京法務局付きから他の部署へ。

蓮華 ……それまで、ここに？

英呈 大事な仕事を任された。それに辞令が来ぬのに動いたらどうなる？

蓮華 英呈 ……

英呈 もし、日軍が来たら来たで、それも新しい秩序だ。混乱に役人は不可欠だ。

蓮華 ……では逃げないの？

英呈 逃げて、どうにもならんさ。兄は逃げ続ける、それが仕事だ。蒋介石総統が日本に勝つまで。

蓮華 ではやはり、負けるのかしら。

英呈 負けぬよ、負けぬが、今は負けるのかもしれない。

蓮華 ……ねえ英呈、この子が…一番、怖がっているの。(腹をさする)

英呈 蓮華、すぐに産婆を呼べるようにアマにしつかり言っておけ。

遠い砲撃が響く。蓮華、腹を抱える。

蓮華 ……嫌な音……

英呈 簡単には陥ちはせんよ。日軍は今、紫金山の裏に潜んでいる。この南京は難攻不落だ。城壁は鉄条網を巡らし、深い塹壕が縦横無尽に掘られ、我が軍の精鋭十万は首都を死守する…

砲声、強まる。茉莉が帰宅する。

蓮華 あら、お帰りなさい。

茉莉 ……義兄さん、居たの？

英呈 ああ……小姐、今日も病院へ行ったのかい？

蓮華 珍しく今日は早いね。早く着替えて。消毒薬臭いわ。(レースのハンカチで鼻を覆って顔をしかめる)

茉莉 ナースが足りないの。空襲の怪我人でベッドはいっぱいなのに、ドクターはもうウイルソン氏だけよ。

英呈 難民のことなら衛生局に任せればいい…

茉莉 ……これをご覧になったかしら？

茉莉、勧告ピラを差し出す。英呈、受け取り丸める。

英呈 冷えるな。石炭を足さないと（奥へ）…ややや！石炭はどうした？空じゃないか。

蓮華 こないだ使用人に言いつけましてよ。

英呈 茉莉、その書類をこつちへ。（デスクの上の書類を指す）

茉莉 これを？

英呈 焚き付けに丁度いい。アマに良く言っておくのだ。産気づいたらすぐに産婆を…

茉莉 アマはもう逃げました。…義兄さん、城内はもう難民だらけ。このまま行けば、飢えるしかないわ。市長はどうするのかしら。

蓮華 もし…略奪が始まったら私達…ねえ、あなた！

英呈 兄は市民に危険はないと言った。日軍は大丈夫だと。しかし…そうだ、下関の門ならまだ通行できる。いざとなったら…上海へでも。

茉莉 上海？

英呈 …荷物をまとめておくんだ。

茉莉 確かに上海の租界へでも逃げこめば戦争は存在しない！国家の危機さえも消える。酒にマージャン、ジャズを踊ってる！墮落の都よ！

英呈 しかし…

茉莉 ここは南京よ。首都を守るのは国民の役目よ。義兄さんも！

英呈 私はただの…ただの役人だ。戦争には役にたたない。何にせよ秩序、秩序が来てからだ。…まず秩序だ。

茉莉 総統はどのように？中国人なら、南京を死守するはず。

英呈 愛国者、愛国心、愛国！知っているか？政府の役人は、特に古いものほど

こう言う、若者の自由が国を滅ぼすと。

茉莉 ……姉さん、何か食べないといけないのよ。食べないと。（袋から缶詰を出す）  
嫌よ、施しなんて。料理人を探してちょうだい…

蓮華 食べなければ餓えるのよ。お腹の子も！

王飛、現れる。

王飛 ……ごめんください。玄関が開いたままでしたよ。

茉莉 ワン・フェイ…カレッジの友人よ。

王飛 皆さんも早く安全区へ避難を。委員会が呼びかけています。

蓮華 何の委員会？

茉莉 南京国際安全区委員会。金陵大学の辺りはセイフテイ・ゾーンになるそうよ。コミッティーが市の中心部を非武装地帯にして、停戦を両方に申し入れているわ。

蓮華 英呈？

英呈 ……アメリカ大使館で聞いてはいた。残ったドイツ人やアメリカ人が委員だ。私も手伝ってくれないかと言われたが……決心がつかない。

蓮華 英呈、あなたは帝国大学に留学したのだから、きっとお役に立てるはずよ。  
日語も堪能だと言えば……

英呈 今、それを言えば漢奸、スパイだと逆に疑われる。彼らに任せよう

蓮華　でも、白人が助けてくれるのかしら？

英呈　きつと停戦になれば、安全、安全だ。

蓮華　安全……安全なのね？

英呈　外国人が言うのだ。中国人より信用できる。

蓮華　ああ、英呈……

英呈　あながち悪い噂ばかりでもない。小姐、お前達のカレッジも安全区だ。明日になつたら、お前も安全区へ行きなさい。……

蓮華　難民と一緒になんて嫌よ。

英呈　今、どれ位いるんだ？

王飛　市外からも殺到して……もう20万近いの……

英呈　水は？食料、医薬品は？

王飛　委員会が奔走しています。……林先生も委員会へ参加してください。中国人も一つにならなければ！連帯して首都南京を死守しましょう！

英呈　まあまあ、まずは停戦だな。停戦さえすれば、水も電気も復旧するだろう。

王飛　……茉莉？

書類を片付け始める英呈。外を見ている茉莉

茉莉　あの戦車、ほら、あそこ、昨日からずっと動かない。誰も乗っていないのよ。

英呈　そんなはずはない。故障だろう。

茉莉　指揮官はどこ？あそこは火事？煙が……

王飛 書類を燃やしているのよ、役人が。

英呈 ……どこで何を聞いてきた？

王飛 前線の兵隊が逃げ出している。

英呈 嘘だ！

茉莉 ……みんな知ってるわ。…役人だけよ！！知らないふりして。考えな

いのよ。感じないのよ。あなた達には見る目も聞く耳もない！蒋介石は逃げたのよ！

蓮華 茉莉！お前は！お前は私の夫に何て口をきくの！

蓮華が茉莉に駆け寄って打とうとするが、バランスを崩して転ぶ。

駆け寄る二人。

茉莉 姉さん！

蓮華 英呈、許して。こんな侮辱を…

英呈 さあさあ、座って…

蓮華 謝りなさい！お前など妹でもなんでもない！

英呈 もういい、いいんだ。

蓮華 いいえ、出てお行き！どこへでも！

茉莉 姉さん、姉さんこそしっかりして。

蓮華 私はここを動かないわ！お前なんか大学に行かせなければよかった。

英呈 止めなさい。ここで言い争ってどうにもなるもんじゃない。

英呈、蓮華を椅子に座らせなだめる。

英呈 小姐、知ってるさ全部……これでもまだ役人のはしくれさ。総統閣下は……

脱出された。お前は残れと……しかし運悪く負ければ、占領後は日軍に仕えるしかない。それが官僚というものだ。

茉莉 それでも……それでも中国人なの？

英呈 賢いとは言えないよ。そんな愛国心を持つなど。

王飛 売国奴！漢奸！

茉莉 だから……だからこの国はきつと滅ぶのよ！

王飛 打倒 反 革命分子！（*Dao dao fang eming fenzi!*）

砲声、近くに着弾する。茉莉、悲鳴をあげて倒れる。

英呈 地下室へ！さあ、急いで。

近づく砲声と機関銃の音。茉莉、王飛

英呈、蓮華を促す。二人は入口へと向かうが、蓮華は産着を取りに戻る。

英呈 早くしなさい！

蓮華 待つて・・・

蓮華、産着を胸に抱える。砲声が激しくなっていく。  
助けられてよろよろと歩きだすがお腹を押さええずくまる。

蓮華 いや・・・いやよ、私、死にたくない：

英呈、蓮華を抱く。突然、扉を乱打する音。二人、凍りつく。全ての音が止まる。

英呈 ……結局、われわれは怠惰で、うろろうろしていたからこんなことが起こったのだ。  
そしてそれは始まった。

暗転と悲鳴。太鼓の音・ストリングラフィを掻き鳴らす音。  
明転、乱れたテーブルと靴。半年後

第二場・一九三八年の五月・邸宅は日本軍に接收されている。

英呈 半年経った。私は家に還った。下僕となつて。

既に仮の政府が出来た、いや、偽と言おうか。旧き政府は奥地へと移った。

この邸は日軍に接收され、やがて現れた主は中尉だという。

英呈は乱れたテーブルを整えている。奥からスーツ姿の田之倉が現れる。目礼をする。英呈。帽子、コートを受け取る。

英呈 ……Master, May I help you?

田之倉 coffee

英呈 Yes, sir……

文机に座ると、書類を広げる田之倉

英呈 不思議な事に、彼には従卒がない。兵士とは異なる不可解な匂い…そして私とメモを介して意思を通じる。

田之倉、コツコツとテーブルを叩き、メモを置く。英呈、メモを取り、読み上げる。

英呈 Make a supper for a guest……Fish or chicken?

田之倉 Fish. Chinese dishes.

英呈 ……Never <sup>ネバ</sup> come <sup>カミン</sup> inside <sup>サイ</sup> two <sup>トゥー</sup> hours <sup>ナ</sup> ……Yes. (メモを返す)

日本人は英語を話す中国人を区別する。私はここに住んでいた外交部長

のボーイだったと嘘をつき、日語を解さぬふりをする。

電話が鳴る。溶暗・

英呈、往来へ籠を持って出る。

表通りの英呈、魚の入った籠を持って佇んでいる。

英呈 南京城内には秩序さえ生まれている。日本軍の恐怖の秩序、スリラー・コン

プレックス…私は中尉の客をもてなす。

従軍僧の林田が現れ、英呈と出くわす。国民服にゲートル、輪袈裟に背囊、数珠をはめた手には紙切れ。

林田 ……おいニイ公、(見せる)ここか？

英呈 ホンシヤンルー193… Yes' but... Do you have an appointment?

林田 (いきなり殴る)

英呈 アイヤー！

林田、入って行く。英呈追いつがる。

電話のベルが鳴る。室内明転、田之倉が話している。

田之倉 アメリカ人牧師の虐殺フィルムです。アメリカでは既に上映が。今後は難民

救済委員会の調査報告が俎上に登ってくるかと………ええ、ええ閣下、おっしゃる通りです。

ドアの向こうで林田の声

林田 ニイニイうるさい！

英呈 Please wait! Please!

林田 呼び出しておいて待たせる気か？

林田、入ってくる。田之倉、無然となる。

田之倉 ドイツ政府もこの件に関しては重大な懸念を表明しておるところです。……

しかし……ええ……

田之倉は、何か言おうとするが、電話の相手がしゃべりだした為、林田を睨みながら牽制する。

林田、椅子に勝手に座る。英呈、狼狽している。

林田 (英呈に) オイ！煙草！………(指を二本出して)

英呈、慌てて煙草ケースの蓋を取る。

林田　クンクン……上等、上等……ん！ん！ん！

英呈、慌てて火をつける。

田之倉　（非常に苛立って、林田を睨んだまま）閣下……ですから、治安状態に関しては大西機関長から報告があった通り新政府樹立に向けて自治委員会の扱いを……いえ、憲兵の増員要請が通りません……

林田　ふは……極楽極楽……おいニイ公、徐州は既に落ちた。蒋介石は今や虫の息だ……まあ今年一杯。ヨーロッパもだな、ナチス・ドイツの快進撃だ！

次に林田、ケースから煙草をポケットにどんどん詰め込んでいく。  
英呈、止めようとしている。

田之倉　可及的速やかに対処致します……調査団派遣には陸軍参謀本部の協力が得られません。総司令官による……

林田　おい、聞いたのか？ニイ公！

田之倉　（ガチャンと切られた音）糞参謀が！……どいつもこいつ……誰が入れと言った！  
所属と階級を言え！

英呈、震え上がる。林田、直立不動で軍隊調の敬礼をする。

林田 失礼致しました。第十六師団歩兵第三三連隊第一大隊付き・従軍僧  
本部長 外交部部長・林田 輪濟であります！南京特務課長より午後五  
時に廣山路一九三番に出頭されたしと承った。

田之倉 指定したのは六時のはずだ……

林田 田之倉中尉……殿か？

田之倉 私が田之倉だ……ところで、いつからそんな組織があるのかね？

林田 上海事変この方、従軍僧あまたひしめく中、我らも軍隊に習いまして所属、  
担当部署、階級を勝手に決めた次第であります。

田之倉 民間人が勝手に部隊付きを名乗るなど、見過ごせんな。

林田 軍人では有りませんが、大日本帝國国民としてその精神は仏に、体は国に  
お預けし皇軍勝利を日夜、祈っております！

田之倉 そうかね……掛けたまえ……

田之倉、イライラと煙草ケースを開けるが、煙草が無い。田之倉、英呈と林田に視  
線を送るが、リアクションがない。ゆっくりと胸の内ポケットへ手を入れた瞬間、林田、  
椅子から飛び降り、平服する。

林田 この通り！！

田之倉 どうしましたか？

林田 どうかその手を！その手をどうかお納め下され！この通り。

林田、煙草を一本返す。田之倉、ゆっくりとライターを取り出すと笑いながら、煙草に火をつける。

田之倉 ……大分お待たせ致しましたな：ハハハ…：ハハ…：

林田 誠にかたじけない。ああ、のどが渴いた。できればおしめりを…

田之倉 ……something drink！

英呈 Yes sir！

英呈、慌てて出ていく。

田之倉 ところで従軍僧とは何をやるものかね？

林田 行軍中の戦死者の供養、その他何でも。

田之倉 その他？

林田 炊事、洗濯、傷病兵の介護、徴発、賄い、…：最前線で我らが一心不乱に読経を致しますと、兵隊さんも恐怖を忘れて突撃できますからな。中隊長にも何かとご贖肩にされましてね、私が鶏をギョウチョンと絞めてますと、「和尚、極楽に行けぬぞ」と笑われたもんです。その彼も今や靖国の英霊。

田之倉 恐れいった。勇猛果敢、獅子奮迅というところか。近頃、南京では従軍僧林田殿の説教節が評判と聞きましたね。

林田 なに座興の戯れです。

田之倉 今、続々と内地から新たな中国政府設立の為に南京入りしているが、皆、宴席で貴殿の「南京陥落」を拝聴するらしい。特務の中でもよく話に上る。

林田 呼ばれればいつでもどこでも参じます。不肖林田、南京攻略では、銃弾飛び交う中、一番乗りを虎視眈々と狙っております。

田之倉 それは非常に興味深い。実は自分は、南京入城式に向かう途中、国外の報道対策をせよと、上海に呼び戻されてしまった。お影で、半年遅れの入城と相成ったわけです。

林田 それは不運でしたな。時は昭和十二年、十二月十七日金曜日、馬上豊かに、中山路を行進される浅香の宮の尊きお姿、軍司令官松井大将の雄姿！歴史に輝く無敵皇軍の大入城式！興亜の歴史、ここに新たなならん！

田之倉 無論、報道ニュース映画を見た。ほうし 暴支 ようちよう 膺懲 の聖戦、南京城に翻る日章旗でしたか？

林田 拙僧も旗を振ってこう、映っておりました！…上海を九月に出て、追撃また追撃の三百里。南京の激戦たるや、シベリア、青島、桶狭間もかくやの戦い。

田之倉 ほう……ではご自身、それら全てを目の当たりにされた？

林田 これでも二度、満期除隊のご奉公を致しました古兵であります。あ、桶狭間は残念ながら……ハハハ、

田之倉 古兵殿、ではそれを是非一つ……お聞かせ願いたい。

林田、待ってましたとばかり膝を打つと、背囊から鉦を取り出し打つて椅子に飛び上がる。

林田

時に昭和十二年、十二月十二日午後十二時！戦車に乗って一番乗りを果たしましたる拙僧の、南京攻略戦の顛末、不弁ながらも弁じます。」「さあ、出発だ！」南京包囲の陣形をとり、潮の如く押し寄せた決死の皇軍。迫る城壁間近に迫り、司令官の号令一過、戦いの火ぶたが切つて落とされた！轟く砲声、天も裂けよと響き渡り、紫禁山から雨よ霰と降り注ぐ敵の野砲の十字砲火！仰ぐ空には銀翼を翻す友軍機の爆音、爆弾、榴弾が耳も裂けよと降り注ぐ。疾駆するトラックの頭上を飛び交う敵弾、ものともせず肩で除けつつ風を切り、城門突撃が始まった！（擬音を交え）猛撃につぐ猛撃、既に南京市内は火の海。麒麟門、まさに陥落寸前。にわかには凄まじい音を立てて、城門に迫る戦車部隊が見えし時、「よし！俺も一つ一番乗りだ」と無理矢理、乗せてもらつて進撃開始。パッパッパッ！ぐるりと囲む城壁の、中華門は既に決死隊で一杯だ。「やあやあ我こそは」と先陣を争う中、見よ！そこには早既に、城門高く日章旗がへんぼんと翻っているではないか。その時、あちこちから「万歳、万歳」歓呼の聲が、天にも地にも祖国にも、響けとばかり木霊する。わが胸は万感の思いに満ち充ちて、もはや声も出ず。両目の泪、揚子江の如く溢れ出て、兵隊と泣き笑いながら、大日本の勝利を祝つたのであります。大日本帝国の勝

利、万歳！万歳！万歳！

途中、英呈が酒を持って入って来て、林田の動きに巻き込まれ、面喰っている。しきりに万歳をする林田、誰も同調しないので、むきになっている。田之倉、おざなりに拍手する。

田之倉 お見事、お見事。

林田 まだ続きがありますんで……

田之倉 もう結構。

林田 いやまだ足りない。

田之倉 さながら、絵巻物ですな。貴殿も商売繁盛、何よりだ。

林田 何の！銭なんぞ一銭たりとも。何しろ、私らの仕事は仏の慈悲と

天皇陛下の大恩を大陸にて知らしめること。南無阿弥陀仏南無阿弥陀  
仏……（猪口をとって差し出す）

英呈、酒を注ぐ。林田飲み干す。

林田 ああ、うまい、うまい酒だ。

田之倉 なるほど、従軍僧とは一石二鳥……しかし……それほど前線を駆け回って、よく命がある。

林田 それこそ神仏のご加護ですな。兵士は殺生が仕事、言わばその罪を我らが

引き取ってやらねばならん。赤紙一枚で皆が、こうして南京くんだりまで攻め上ってくる。初年兵など最初は銃剣を持つ手も震え、ニイ公の昼寝を見るだけで飛び上がりますな。

田之倉 ニイ公の昼寝？

林田 ハハハハ！敵の死体の事をそう呼びますよ。

田之倉 なるほど。実は貴殿のような、云わば得体のしれないものが従軍する事に非常に疑問を持っていた。

林田 ……これはいかに！従軍僧が気に入らぬと申されるか？

田之倉 いや、あくまで疑問だ。満州国建国以来、雑多な日本人が大陸で跋扈している。軍に協力すると見せかけ、不埒な輩も少なくない。

林田 ご安心召されよ、仏教者は皆これ、八紘一宇も南無阿弥陀仏と同様に、念じております。この南京戦は必ず全世界の歴史に残りませぬぞ。

田之倉 確かに。…既に世界は日本の暴虐で沸騰している。

田之倉、英字紙の束をテーブルに出す。

林田 ……(返す)生憎、無学なもので。

田之倉 (読む)The Nanking atrocities(ナンキン・アトロシティーズ)The New York

Times. December エイティーン……ああ失礼…十二月一八日、上海発  
特電「南京での大量の虐殺、蛮行により、日本軍は現地中国人住民およ

び、外国人から尊敬と信頼を得るまたとないチャンスを棒に振ってしまつた。」

林田、田之倉の手から英字紙をとると逆さにして、矯めつ眇めつ、眺め回す。

林田 虐殺、蛮行……

田之倉 昨年の陥落直後に南京を脱出したアメリカ人記者によつて全米に配信された第一報だ。他にも、シカゴ・デイリー、ガーディアン・マンチエスター、こちらには、「地獄の四日間」とある。

林田 ほうこれが地獄、地獄と……

田之倉 今、日本は世界中から非難を浴びせられている。非戦闘員の拉致や捕虜殺戮の責任を問われ始めている。この悪質な反日プロパガンダによつて野蛮で文明国らしからぬ振る舞いだと貶められるままだ。アメリカでは官民こぞつて日本人排斥のキャンペーン！ところが我々は、「謀略だ、嘘だ」と喚くばかりでこれを覆す手段さえない。幸い、内地には情報は届かぬが。

林田 はたまた、何がどうしてそうなつたか？

田之倉 国内新聞は陥落前から軍の連戦連勝に熱狂……その浮かれぶりはさっきの、説教節なみ。正直、不快ですな。

林田 無敵皇軍を広めて何故悪い。シナのやり口こそ横暴極まる！

田之倉 兎に角、このままでは欧米列強の白人どもに付け入る隙を与えてしまう。今後の宣撫方針として、あまりに現実離れした絵空事を吹聴するのをや



田之倉 そう見せかけて宿营地での活動、部隊の耳目となって、情報収集を務めたとか？

林田 いやはや、見ざる聞かざるが信条。

田之倉 坊主には警戒も緩む。辞令もなく部隊間を渡り歩いたとしても疑われまい。

林田 …つかぬことをお聞きしますが、中尉殿、所属はいつでも？

田之倉 中シナ宣撫工作統括、それ以上に知る必要はない。

林田 …匂いますな、きな臭い。万一、それを請け負って、お陀仏になるのは堪りません。

田之倉 宜しいか、本当の戦争とは、戦闘終了後に始まる。ところがこの南京の現状はどうだ？これを勝利と言えるかね。経済復興、新秩序をもたらし、かつての支配よりも繁栄させてこそ、真の勝利たりえる。そうしてようやく、我らの文明が中国に勝利する。それが和平建国。

林田 (笑う)

田之倉 ……おかしいかね？

林田 こりゃあ、神がかりだ！キジルシだ！上には上が居るもんだ。

田之倉 何だと？

林田 中尉殿、兵隊は、ただ自分が殺されまいとして殺す。上から前進！と言われりや、馬糞に死体、汚物の上を匍匐前進、突撃！と来れば、歩兵は前に進むだけ。

田之倉 それぞれ役割がある。大義の為に戦う駒がいてこそ、聖戦が成り立つ。

林田 侮ると知らぬ間に王手、ですぞ。

田之倉 喜んで駒になる。そういう貴殿の目的は？

林田、酒を飲み干す。

林田 もちろん、極楽浄土建設……（笑う）

田之倉 死体の埋葬業者だが、南京特務から渡りをつけておく。潜り込んで確かめる。

田之倉、アヘンの包みを渡す。確かめる林田

林田 ……紅卍教団、他にもいくつか……地獄の沙汰も金次第。あのニイ公、

使えんかね？

田之倉 まだ様子を見ている。英語が使えるから、いずれは難民救済委員会へでも潜りこませるつもりだ。

林田 あの敗残兵狩りを逃れたのか。運のいいやつだ。

田之倉 ……シナ人が嫌いかね？

林田 ああ。特に、あんたとこの高等種族みたいなのがね。

英呈、現れる。

英呈 Master, It's time to supper...

田之倉 Yes, 一献、どうかね？

林田 忝い。それで肴は何かね？

田之倉 魚だ。

林田 さかな……

田之倉 揚子江の雷魚はうまい。白身は淡白だが、油がのっている。それを松笠に切つて揚げると酒に合う。しばらく泥を吐かせれば刺身でもいけるが……生臭いかね？

林田、不機嫌になる。

林田 ……三国志だったか、自分の女房を膾にしたやつがいた。知つとるかね？

田之倉 ……何を言っているのかさっぱり分らん。

林田 知らぬが仏とはこのことだ…

田之倉 人を食ったような坊主だな。続きは食事の後だ。

田之倉、立ち上がるが林田は英呈を見ている。英呈、テーブルの酒を片付けながら、英字紙に眼をとめ、目を離せなくなる。

林田 おい、何を見てる？

田之倉 そんなものはどこでも読める。内地と占領地以外。

田之倉、新聞を英呈に差し出す。

田之倉 *It's not confidential.*

英呈、視線を外して平服する。

田之倉が去ると貪るように新聞を読む英呈。

英呈 *Nanking Massacre Story.....*

暗転・SE・解錠する音

### 第三場・地下室の英呈

英呈 その虐殺のニュースは、残念ながら我々を救うことはなかった。そして今年、ドイツ人が退去して以来、我々は記録されることもなく、世界から捨て置かれていた。しかし私は記録を続けている。なぜ、こんなに悲惨な事を書き記しておくのか？それは私自身のためなのだ。今では、敵を憎む気力もないほどに、絶望しているにも関わらず……夜、私は地下にある無電の前に座る。そして、中尉の動きを兄に向けて発信する。

酔って「満期操典」を歌う林田の声が遠く聞こえる。

林田 一ツとせ、人の嫌る軍隊に、志願で出てくる馬鹿もある、志願処か再役するよな馬鹿もあるわーえ。

英呈 六月一日、兄から、密使を通じて初めての便りがあった。漢口に逃げた政府はまたもどこかへと移るらしい。そして兄は専ら我が家の財産を気にするのみである。減らさぬようにせよ、増やせ！……今や、私は奴隷である。日本軍の、国民党の、そしてこの家の。

林田 六ツともせえ、無理な事でも軍隊は、命令なんぞとかこつけて、絶対服従せにやらぬ。

英呈 ……失って初めて真にそれを獲得する、ということがある。

### 現れる蓮華の亡霊

蓮華 英呈、（紅葉を陽に透かして見る）ほら、きれい。

英呈 ああ、美しいね……

蓮華 今年は特に紅いわね。あなたの植えた紅葉……

英呈 蓮華……

蓮華 今度は連れて行ってね、東京に。私もこの子も。

英呈 ああ……きつと。

英呈が手を取ろうとすると蓮華は消え去る。

英呈 ……失って初めて、我々は多くのものを学ばねばならぬ運命にあるようである。  
滅亡によってもたらされるもの……復讐或いは

突如、林田の歌が聞こえる。英呈は立ち上がり、小部屋を出ると  
鍵をかける。

暗転

#### 第四場

朝・田之倉が現れ、机に座り洋書を読み始める。英呈がトレーを持って現れ、紅茶をサーヴする。

英呈 Good morning master.

田之倉 mornings…（寝不足で頭痛という風情）

英呈 マルクス、ケインズ、ニーチェ…中尉は虚ろな己を私の本で埋めている。そして時々、私の架空の主人について質問する。

田之倉 ケンブリッジ!?

英呈 Yes. And Tokyo Imperial University.

田之倉、茶を飲むと、机の上のお気に入りの石を手慰みし、光に透かして見たりする。

田之倉 玲龍として……美しい……

英呈 コレクション。人には癖がある。何かに執着し溺れる癖を、やまいだれに知る  
(空に書く)、痴と呼ぶ。

田之倉 (英呈の視線を感じ) amazing... (It's my favorite.)

英呈 石を愛でる男：己を理解してくれるもの、人に非ずとも良し……史記に言う

田之倉 士<sup>し</sup> は己を知る者の為に死ぬ……女は……

二人、目が合う。

英呈 一度情を傾けたら、改めることはない。この中尉は石に注ぐ情欲を、女に傾けるか?

田之倉、紙に「石不能言最可人」と書きつけ、コツコツと机を叩いて英呈を呼ぶ。

英呈 (見て)……

田之倉 Is it correct?

英呈 Yes, Silence is

田之倉 ……golden

英呈 「石、言う能あたわずずして、最も人によし」……

静寂を破って林田が傍若無人に現れて座る。田之倉、英呈に顎で指し示す。英呈、香を焚く。

英呈 あれからハヤシダという男は何度も現れる。私は彼らに知られぬよう、それを耳に入れる。

田之倉 真の敵はインフレーションだ。上海では戦争が株式市場の材料になっている。もはや紙幣は紙くずだ。

林田 あんたのようなのを軍人と呼ぶものかね？

田之倉 和平建国にはインテリジェンス、資本、娯楽。日本の軍票は嫌われる。何故か？奥地はもっぱらアヘンか金だ。この十年、需要と供給の…

英呈 需要と供給の法則によってアヘンの価格は暴落し、国民の八人に一人がアヘン中毒となった。アヘンの害毒を垂れ流したイギリスの代わりに現れたのは…

林田 満州のどんな奥地にも日の丸印の葉売りがいる。驚くなかれアヘン屋だ。しかも売り子は台湾人。

田之倉 日本人だ。占領地の安定には、アヘンの耕作地拡大が要る。満州国のアヘンのシェアは順調に広がっている。

英呈 屈辱の 〇・一〇、柳条湖事件、我々はそれをチュ・イ・パと刻む。関東軍は鐵道爆破を自作自演、テロだと言つて満州を占領した。

林田 そろばん勘定だけかと思いきや政治もするのかね。

田之倉 この仕事は貴殿の浄土建設とさほど変わらん。念仏は好かれるのかね？

林田 勿論！ニイ公も喜ぶ。わしが占領地の村で、子供を寄せて一銭銅貨をやつて、「南無阿弥陀仏、ほれ、平和を愛する者こそ日本軍よ」と話せば何でも手伝う、日本人と共に行くと別れを惜しむ。どこが抗日なものか。

田之倉 そう、シナ人民は蒋介石に騙されている。学生に抗日を叫ばせ、日本製品の不買運動をさせる。その一方、中国政府の守るものとは、一部特権階級や財閥であつて国民ではない。外国資本と提携し富を貪る。これを覆さねばならん。

林田 おや……これはなにやら、ボルシェビキのようですな。

田之倉 ボルシェビキ！これは、貴殿らしからぬ言葉が出た。

林田 人民の解放、階級打破とくれば過激派。よもや赤くなつてはいませんか？  
ええ？

英呈、洋書を揃えている。林田、一冊奪う。

林田　これは何が書いてあるんで？

田之倉　経済学だ。貴殿には：読めぬ？

英呈　Excuse me.

英呈、林田から慇懃に本を取り返す。

英呈　インテリは、己の価値を絶対とする。そして例外なく、揚子江のごとく、左へ左へと蛇行する。

英呈、本を戻す。

林田　・・・今日は埋葬業者の帳簿をお持ちした。

席に着く二人

林田　帳簿上では死体の埋葬一体につき、三〇銭。

田之倉　この数字は水増しがひどい。一日で五千体をどうやって埋葬するのかね？

林田　まあやり方次第、揚子江は海みたいなもんですからな、ガハハ。

田之倉 兵士か民間人か？

林田 軍服脱いでりや分らん、死人に口なし。

田之倉 もっと緻密な調査が必要だ。調査統計は経済学の基本だ。

英呈 数による秩序、難民救済委員会のスマイス博士が戦争被害の報告書を出した。「スマイス・レポート」：

英呈、封筒を田之倉に渡す。

田之倉 ……レポートによると、死者・三二五〇人は理由が明らかな軍事行為によつ

て死亡したものである。その内の74%は軍事行動とは別の暴行によつて殺されたものである：埋葬者の入念な集計によれば、一万二千人の一般市民が暴行によつて死亡……

英呈 数による秩序。全く無意味な大量殺人を目撃した者は、何の尊厳もなく死んだ人間を、その数字に落とし込むことに耐えなければならぬ。

林田は馬の耳に念仏という体。

田之倉 暴行による死傷者の九割が占領完了後に起きている。報告された死傷

者に加えて、四二〇〇人が日本軍に拉致され、ほとんどが早い段階で殺されたものと考えうる理由がある。……市民の連行について伺おう。

林田 ちつと殺しすぎとは思いますが、シナの横暴、許すまじで、兎に角、勝った。

田之倉 勝ってどうしたのか？

林田 勝って？ウサギ狩りだ。かなりの数が安全区に逃げ込んだ。

田之倉 質問を変える。勝って南京市民をどう扱った？

林田 市民も銃を持っていれば義勇兵、区別などつかぬ。兵隊が足りないと、国民党も共産軍も年端も行かぬ者まで引っ張って行きやがる。

田之倉 少年兵か？

林田 南京の手前で部隊が捕えた数百の捕虜、中には十二、三の物心つくかつかず。みな処刑とは憐れなものよ。

田之倉 処刑……軍事裁判はしなかったのか？

林田 捕虜が多過ぎただけだ。ものの数にも入ってない。ご心配召されるな。

### 間

田之倉 …では…この強姦被害、一六歳から五〇歳の婦人の８％、新聞の二万件という強姦・略奪はどうだ？

林田 云わずとも分ろうも。タダで何とかなるのに、慰安婦に金を払うか？

田之倉 無法な略奪強姦など、もはや文明が許さぬ！世界に冠たる皇軍に断じてあるはずがない。

林田 これだから困る。はなから慰安所があるわけじゃない。軍隊が行く処どこでも一番乗りは慰安婦、実に勇敢、それから坊主に新聞記者…その順番がちよいと狂って…貴殿にも覚えが…

田之倉 けがらわしい！その口を閉じろ！

林田 平に平に！この古兵をご容赦下され……：思い起こせば大正八年、シベリア出兵の御役、はるばる北のウラジオくんだり、わしのお初の殺生よ。パルチザンの村を焼き女子供も皆殺し。面白半分に目から頭に通してみたり、背中から前から田楽刺しにしちまつた。ああ、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏……

田之倉 残念ながら、今ではあの出兵は失敗という評価だ。しかもニコライエフ港で、ボルシェビキに市民虐殺を許す結果になった。

林田 そう失敗、犬死にもいいとこ……。あの惨たらしい後を見て、ああ、俺がしたのはこれかと、ようやく合点がいったがナムアマミダーと唱えるだけで……：まだ、あんたが潰たれ小僧の頃だ。

田之倉 古兵殿、それでもロシア革命の影響を防ぐ効果にはなった。しかし、この事変は違う。

林田 確かに、この戦争は見事なもんですな。

田之倉 正確にはこれは戦争ではない。あくまで偶発的な上海事変の延長、それが南京戦だ。

林田 事変、出兵、ものは云いよう！……あの頃、内地は米騒動。食えぬとは地獄そのもの。餓えさせて野放しにすれば皆、過激になる、兵士も土民も。

田之倉 そこから抜け出す為に我々はここにいる。

林田 へえ、そうですかい。じゃあ、あれもこれも同じ？

田之倉 ……今、私が問題にしているのは国際法だ。外国人の目のある中で、投降し

た兵や、民間人を手続きもなく処刑したとしたら、明らかに非難を浴びる。文明国として許されん。無実をどう証拠立ててるのか？

林田、いきなりレポートを奪い取って捨てる。

田之倉 やめろ！この乞食坊主め！

林田 一つとせ！無理なものでも軍隊は！

興じて、本を破る林田。田之倉、激怒してデスクの引き出しを開けて銃に手をかける。

田之倉 許せん！憲兵を呼ぶ！

林田 中尉どのは、兵も人だと思つとられんな。皇軍とて、飢えますわいな。占領地は焼け野原、すでにコメは一粒もない。飢えるか、奪うか？あんなならどうする？

田之倉 作戦命令を遂行するだけだ。

林田 そう、上官の命令は天皇陛下のご命令、作戦遂行の為には何でも許される。押し込み強盗まがいの徴発を、せねばこの身がもつものか！

田之倉 馬鹿馬鹿しい！そんなもので大東亜の建設などできるかね！このアジアに大日本帝国の恩恵を享受させることが急務だ。それ故、そのような軍律の乱れが起きているとしたら軍事裁判ものだ。

林田 命令一過、機械仕掛けの戦争人形が、大東亜を建設していくと思われ  
るなら笑止千万！！

林田、歌いだす。

林田 六ツともせ、無理な事でも軍隊は、命令なんぞとかこつけて、絶対服従せに  
やならぬ。

田之倉 話の通じない奴だ。憲兵を呼ぶぞ！

林田、英呈をいきなり殴る。

林田 齒をくいしばれ！精神決めて！懲罰だ！

英呈、パニックしている。

英呈 トシヤン シエンピン トシヤン グイ  
東洋 官憲！東洋 鬼！  
田之倉 やめろ！気が狂ったか！

Calm down! Keep your head!

田之倉は英呈を介抱する。

田之倉 お前のような輩のせいで、皇軍の威信が汚れる。即刻退去処分を…

林田 人を喰ったは中尉殿。「続・南京攻略」不弁ながらも、弁じます。揚子江を背に、まさに背水の陣、南京城に籠城の中国軍十万の運命やいかに！徹底抗戦を叫んだ司令官、総攻撃を前にして、卑怯にも下関から揚子江へと逃げ出した。残された部隊は総崩れ！武器を放り、軍服脱いで逃げ出した。中華門が突破されると、中国兵は、北西に向かって潰走、潰走！ところが、これを押し戻そうと中国守備隊が発砲、これ同士撃ちとなつて阿鼻叫喚の地獄絵図！ところが！背後から現れた日本海軍、艦砲射撃を加えたからたまらない！次々と兵士に難民、積もり積もって運河は黒山の死人ばかり！その数、凡そ二万。滔々と流れる大河はこの死体を呑み、どす黒い川面に広がる血の池、あぶく、射殺体！！巡る因果の糸車！クリークの雷魚を捌く太公望。人を喰ったような顔をして、喰わされたのは……（笑いだす）

田之倉、不可解さに包まれる。やがてぎよつとなつて、英呈を凝視する。英呈、後ずさつていく。

田之倉 ……分かつて聞いていたのか？

林田 さあて、料理でも始めるか？

暗転・S E・鉄格子が閉まる音

## 第五場

拷問される英呈・半裸である。

英呈

こんな夢を見た。冷えて血の少ない、ひとりのおとこがそこに眠っている。そこは、暗くて丸い温かな世界で、まわりの壁は膿のようにやわらかく、男は泳ぐように眠っている。

蓮華の亡霊、現れる。

蓮華

雪よ。ほら……寒いわ。

英呈

十二月十四日夜半、捕まった市民は小学校の講堂に集められていた。約五百人の老若男女。男たちは疲れきっていた。昼間は数え切れぬ死体を、門の外を流れるクリークに投げ込む仕事をさせられたのだから。

蓮華

……この臭い……ねえ、ここに何時まで？

体育館・王飛、茉莉、お互いを見つけ抱き合う。

王飛

YMCAに行こうとしていたら弟が連れていかれて……兵士じゃないって何度言っても……額に帽子の跡があるからって……ここで見なかった？

茉莉 (首を振る)……民間人だもの。きつと釈放されるわ。

王飛 ……略奪が始まったの。最初は中国兵、難民が食料店を襲って。だから、日本軍が来た時、何故かほっとしたのよ。けれど……

茉莉、王飛、顔を見合わせる。

茉莉 休戦は？

王飛 (首を振る)……委員会に武装解除された兵士は、最高法院に収容されたけど、日本軍に連行されたわ。…兵士が軍服を脱ぎ捨てて安全区に逃げ込んでいる。

茉莉 ここにも居るわ……

王飛 ……何とか皆で病院まで行かなくては。国際赤十字協会を起ち上げるそうよ。牧師様が。

茉莉 王飛、私に考えがあるわ。師範大学の学生もいるのよ。だから……

王飛、茉莉に耳打ちされ、半信半疑ながら、頷きそつと立ち去る。  
茉莉は、英呈の所へ行き、小声で話す。

蓮華 茉莉……(口を押えられる)

茉莉 ……しっ！義兄さん、これ以上の犠牲を出さない為にも、この五百人を組織しましょう。

英呈 組織するとは……？

茉莉 日本語のできる者は外交班、医療の心得があるものは医療班、子供や老人の面倒をみる女子青年班を作るのよ。そうやって連帯していれば、武器を持たない私達でも力を持てるはずよ。

蓮華 小姐、本当にそんなことをして大丈夫？

茉莉 このままではいけない。義兄さんは、日本語が出来るのだから、この部隊の隊長に会って、金陵大学の国際安全地帯委員会に連絡させて、ここを丸ごと難民収容所に指定するように頼むのよ。

英呈 しかし、そんな目立つことをしたら……

茉莉 殺されるかもしれない。けれどよく考えて、この先これだけの難民を抱える事など無理よ。日軍だつて面倒になるはず。うまく交渉すればきっと……

蓮華 お前は何て賢いのかしら。

茉莉 顔見知りの学生もいたわ。連絡さえ付けば、きっとなんとかなるはずよ。

蓮華 しつかりね……

英呈 分った、分った。何とかする。何とか……しよう。

英呈、立ち上がり二人から離れる。茉莉、群衆に向かう。

茉莉 皆さん、これから私の言うことを落ち着いてよく聞いて下さい。驚いても大きな声を出さずに、静かに後ろの人にも伝えて。我々は今から組織を作り出す……

英呈 私は、役人だと素性を明かし、見張りの軍人に面会を申し込んだ。私の話を、下士官が将校に話し、将校が副官に話し、副官が部隊長に告げた。

茉莉 皆さん、交渉は成功しました。今、食物を持っている人は、一番弱い人に分け与えて。お年寄りや子供を中の方へ。手を繋いで連帯しましょう。

茉莉、讚美歌を歌い出す。蓮華も一緒に歌う。美しい連帯の空気。突然、どこから、野卑な歌が聞こえる。歌が止む。壇上を見上げる三人の顔、強張っていく。

蓮華 ……あの人達は何をしているの？

英呈 体育館の壇上はいつの間にか、酒に酔った兵でいっぱいになった。レスリングをするもの、ピアノを弾くもの、踊りだすもの……さながら、我々難民を観客とする舞踏会が開かれているようだ。

茉莉 皆、刺激しないように……大声を出さないで……固まって……

英呈 やがて、悲鳴を上げ続けるものが引きずり込まれた。

王飛の悲鳴。蓮華、前方を指し、悲鳴をあげるが茉莉に抑えられる。

茉莉 落ち着いて、連帯よ！連帯……  
英呈 もはや団結もなかった。殺戮に酔い、死に酔った兵は、続いて sex に酔わなければならなかった。全ては無駄だった。

銃声、ガラスの割れる音。逃げまどう三人。  
音楽

王飛と茉莉、逃げるが追い詰められる。突然、叫ぶ王飛

王飛 打倒 日本帝国主義！（*Dadao Riben zeng diguozhuyi!*）  
誓死 不当 亡国奴！（*Shisi budang wangguonu!*）

不自然な形に曲げられていく王飛  
それを隠れて見ている茉莉

音楽が止む。

茉莉は居なくなり、蓮華と英呈の二人が座り込んでいる。

蓮華 もう動けない。ここで、ここで死ぬわ。  
英呈 駄目だ。さあ、歩こう。  
蓮華 あんなことを見たら、もう生きてはいられない。人の世に在りたいとは思わな

いのよ。あれを見て、普通の人の道に戻るなど、人で在り続けるなど私には……もうたくさん……ここで死なせて。

英呈  
蓮華……

英呈  
私は、トラックに乗せられ、運ばれた。あの夜、わたしは幾度か惨憺たるものを見た。

林田が銃剣で突くように英呈を突く。

林田  
ニイ公、齒をくいしばれ！足を踏ん張れ！

英呈  
鋭い枝に突き刺された人、木も人も二重に死んでいた。

林田  
答えろ！このボルシェビキめ！頭を西瓜に割ったるか！三つ四つに分けたるか？

英呈  
あなたは正常だ。私を苛む理由がある。だが、虐殺には理由も目的もない。それをして、どこへ行くのか？

林田  
殺し儲け！殺され損だ！おくれをとるな！

白い猫（王飛ぶ）が現れる。横たわっている蓮華をまさぐっている。  
猫の口は赤く血に染まるが、それをぬぐうと去って行く。

英呈  
：野犬が野ざらしの屍を食らう時、まず先に睾丸を食らい、それから腹部

に及ぶ。人間もまた、裸の屍をつつく場合には、先ず性器を、ついで腹を切り裂く。

犬や猫は食ったのちに、行くべき道を知っている。けれども、人間は、殺した後に行くべきみちを知らぬ。もしもあれとすれば…

林田、英呈を銃剣で突こうとする。

旅装の田之倉が現れる。

田之倉 やめろ！

林田 お早いお帰りです。出張は如何で？

田之倉 無駄な仕事をさせた。プロフェッサー・林<sup>リン</sup>、痛みますか？どうぞ、無礼をお許し下さい。

林田 ちよつとまった。

田之倉 アンケイで素性が知れた。この男の兄は国民党の幹部だ。林英呈先生は、占領前までは経済学の大家で法務省の役人でもあり、諸外国に知人も多いとか、そうですね？プロフェッサー？

英呈 兄に…会ったのか？

田之倉 林魁呈氏は現在、こちらの重要な役割を果たしている。

英呈 兄が？

田之倉 林氏のネットワークの中で、あなたも又、重要な役割を担っていた。あなたのカモフラージュと情報収集能力は完ぺきだった。任務は完了しました。

英呈、茫然とするがやがて自分の役目を理解する。

英呈 ……漢奸……売国奴……とは……この私……

田之倉 ご家族が、南京戦でご不幸に会われた事も伺いました。心より哀悼の意を表し、お悔やみを申し上げます。

田之倉、深々と頭を下げる。林田、面食らい、茫然としている。  
英呈 自体も、茫然となっている。気がつくど、旅装の茉莉が立っている。

英呈 小姐……

田之倉 Ms. Zhou をお連れしました。共産軍のはびこる奥地の病院におりました。ひどい状態でしたから、我々としては一日も早く、最善の医療を尽くしたく……

英呈 蓮華……

林田は出て行く。くず折れる茉莉に英呈、這い寄る。茉莉は布に包まれた小さな包みを差し出す。そつとあけると骨が入っている。英呈はそつと手に取る。

茉莉 蓮華……死<sup>スウ</sup>了<sup>ラ</sup>……死<sup>スウ</sup>了<sup>ラ</sup>！

英呈 蓮華！蓮華！

英呈、骨を抱いて倒れる。溶暗・音楽

英呈と茉莉は白布で祭壇をしつらえる。紅い蠟燭に火を灯す。何度も膝まずいて拝礼する。英呈は「奠」と書く。

茉莉 あの後、金陵大学へ辿りついたわ。でも、そこも安全地帯ではなかった。幾

度も兵士に襲撃されてとうとう……私、代わりに死ねれば……姉さんと赤ちゃん……

英呈 小姐、小姐、生きていてくれた、よくぞ生きて。

茉莉 ああ……

茉莉、泣いていたが、しだいに震えだし、ヘロインの禁断症状を呈す。

英呈 どうした？どこか悪いのか？小姐！！

菊の花を持って現れた田之倉、様子を見て茉莉を抱きかかえる。

田之倉 禁断症状でしょう。お待ち下さい。

田之倉、カバンから注射器を取り出すと、茉莉の腕をゴムで縛り、  
静脈注射する。緊張の後、弛緩する茉莉。

田之倉 不幸な目に会われたようです。彼女は、金陵大学で自衛組織を作ろうと  
したらしい。結果、暴行を受け、梅毒を患いました。その激痛から逃れる  
為にアヘンを。

英呈 与えたのか？

田之倉 既に禁断症状がひどく、与えないわけには……

英呈 アヘンは国禁だぞ！！

田之倉 しかし奥地で手に入る薬剤はアヘンのみです。

英呈 イギリスの代わりにアヘンを流通させているのは、お前達じゃないか！

田之倉 専売と言います。困ったことに、地方軍閥は粗悪品を市場に出している。

：国民党政府はアヘンを売るものに死刑を適用していますが、需要のある  
所には必ず金が流れる。我々は流通量を管理調節し、やがては全廃する  
方針です。

英呈 ……心が痛まぬのか！！この娘にアヘンはいらない！！私が治す。

田之倉 彼女を上海の病院へ移送させてくれませんか？

英呈、信じられぬという顔で田之倉を見る

英呈 あなた方は我々をここまで壊し、損なつて又直せると思うのか？

田之倉 戦争は仕方ないとしても、私は病気を治す義務のようなものがあるように考えるのです。あなたやあなたのご家族への個人的悪意も憎しみもありません。

英呈 少なくとも私にはある…あなたや、戦争への憎しみが。

田之倉 あなたは、国家と非常に近い所に居た人間です。ですからそのような個人的な事情を持ち出すことは如何なものかと。

英呈 獣め！

田之倉 少なくとも、あなたを人として遇した。

英呈 ……

田之倉 ミス・ゾーは治療する。

英呈 万が一……彼女が承知するなら。

田之倉 分かりました。それからプロフェッサー。

英呈 プロフェッサーはやめてくれ。

田之倉 林先生、私の拙い英語などさぞやおかしかったでしょう。従僕だというあなたの言葉を信じた私が悪いのですが……これ以後は、いくらなんでも召使をしていたくわけにはいきません。もっと別の、何か文化的な仕事されてはどうでしょうか？今、あなたのような知識人を、臨時政府は必要としている。

英呈、黙っている。

田之倉 この部屋、本来はあなたのものだったとか。今後はお使い下さい。

英呈 断わる。

田之倉 任務はもう終わりました。あなたは日軍の動向をこれ以上、兄上に通報する必要が無い。

英呈 私は、兄から家を守れと……裏切り者であれ、中国では家長の命令は絶対です。従僕を続けます。この家の何一つ損なわれては困る。

田之倉 強情な人だ。まあいずれ、あなたの頭、思想がそれを許さないでしょう。お氣持ちが変わりましたら……とりあえずこの部屋はお返しします。…今日の夕食は……お任せしましょう。滋養のあるものを妹さんに。それから、これを……

田之倉、アヘンと菊の花と金を置いて去る。英呈、祭壇にひざまずいて泣いている。  
茉莉、手を震わせて差し伸べる。英呈、茉莉の手を取る。

英呈 よく戻ってくれた。よく……

茉莉 死ぬことはいつも考えて……兄さんに会えるかもしれないと。南京に戻れるかもしれないと……

英呈 ありがとう。ありがとう……

茉莉 襲撃を受けた時、お産が始まって、姉さんはすぐに心臓が止まってしまったの……だから、姉さんは死んだけれども、損なわれなかった。けれど、私は……女の屈辱……日本兵は私を嬲りながら叫んでいた。獣のような叫びをあげて。人ではなくなっていた。人が人であることをやめてしまうのよ。それを見て

英呈 私は……私は私の体を、私と切り離して、時間が経つのを待った。

英呈 まず体を治そう。

茉莉 治るのかしら。肉体は治るかもしれない、かもしれないけど私は治らないわ。

英呈 何か食べるかい？

茉莉 何も……

英呈 いや、駄目だ。食べてくれ。蓮華の分も、腹の子の分も……

茉莉 そう……

英呈 おめおめと生き残ったことを今日は感謝している。お前に何か作ってやれるのだから。

茉莉 義兄さん……

英呈 きつとお前は蓮華の血を繋いでくれる。蓮華の血を絶やさずに済んだ。……

茉莉 ……祈りが聞き届けられた………

英呈 本当に兄さんは古き人ね。

茉莉 ああ、骨董品だ。何でもいい。

英呈 ……あなたの新しい所は男なのに厨房に入るところ、姉さんはそれを嫌がって

いた………姉さんはもつともつと古い女。だけど……

英呈 ……蓮の餡のお菓子を作ってあげよう。好きだったろ。

茉莉 姉さんも大好きで……

英呈 さあ、眠れ。アヘンの夢はもうこれきりだ。苦しくても……

茉莉 ええ………耐えるわ。平気よ、あれ以上の苦しみなどどこにもないもの……

英呈 茉莉……

英呈、田之倉が手向けた菊を捨てると、茉莉を連れて部屋を出る。  
やがて闇が変容する。蓮華が現れて呼吸し、菊を拾う。何かが軋む音。やがて林田が現れる。サーベルを持っている。歌っている。

林田 雨のシヨポシヨポふる（晩）パンに カラス（ガラス）の窓から覗いてる 満鉄の金  
ポタンのパカ野郎 触るは五十銭 見るはただ……三円五十銭くれたなら  
かしわの鳴くまでポポしゆる……

部屋に入るとその空気を鼻孔に吸い込む。何かを探し始める。林田は蓮華に向かい、誰かの相貌をそこに見る。

林田 おい……来たぞ。なあ三円、三円五十銭やる。おしめりをくれ……乾いてるんだ……カラカラだ……

蓮華の手を取ると、撫でさする。

林田 え？可愛い手えしてるじゃねえか……ひい、ふう、みい、指がちゃんとなあ……知ってるか？シベリアにゃ、いい女がいた。似てるぞ……シベリアお玉か？いや大連お竜、アムールお静……食べぬつてのは地獄だ。……お前、どっからだ？朝鮮か……幾つだ？攫われた？こんなピー屋でなぐさみものになって……え？帰ら

い？どこに帰るってんだ？こんな体になっちまって帰るとこなんかねえよ。ピーも兵隊も棄てられておしめえだ・・・なあ、一緒に行くか？行かない？嫌か？  
・・・シベリアじゃあ人は凍って丸太になる。丸太を燃やせばパーンとはで  
て・・・ボルシェビキが来るぞ。シナ人も土民も・・・おれらを殺しにくる。殺しても  
うけ、殺され損。ブスーリと刺せば愉快！

林田、菊の花を振り下ろす。菊の花が散り、蓮華は消えていく。

林田 二ちも三ちもおまけして かしわの鳴くまで ぼぼしゆるわ

あーたまされた、たまされた。あーたまされた、たまされ・・・

林田、床に転がり菊の花の中に身を横たえて果てる。

暗転

## 第六場

英呈が祭壇の花を整え、蓮の餡の菓子を供えている。田之倉が書類を手に椅子に座っている。

田之倉 先生の帝国大学のご学友は、日本の要職に着かれています。きっと、あなたに  
援助の手を差し伸べられる筈です。

英呈 ……私など二流だ。大した論文も書いてない。

田之倉 今こそあなたのような人が、臨時政府には必要だ。

英呈 これも宣撫工作ですか？

田之倉 いや……同門の後輩としての、お願いです。

英呈 それは奇遇だ、喜ぶべきかどうか……確かにあなたはインテリジェンスをお持ちだ。しかし……

田之倉 しかし？

英呈 まるで寸法の合わない背広を着ている。

田之倉 ……そう見えますか？

英呈 あなたは将校というより、官僚です。

田之倉 おつしやる通り……我々は新しき戦争を戦っています。

英呈 私のような腐敗政府の官吏にとつて、あなたの主張はまぶしい。しかし、中国はやつと戦国時代が終わりかけて、思想の戦いが始まったところです。

田之倉 我々は、今、ナチス・ドイツに学んでいます。ドイツはワイマル憲法という自由主義憲法を作り、それはマルクス主義さえ育つ地盤を与え、国家よりも個人主義、民族さえもないがしろにする混乱を招いた。結果、ドイツは敗戦国となり、そのゲルマンの苦悩から、アドルフ・ヒットラーが祖国の危機を叫んで立ちあがったのです。(ハイル・ヒットラーの礼)……アジアにおいては、それが皇道です。

英呈 コードー、あなた方は信じやすい。

田之倉 我々を対等に扱う国、ナチスドイツこそが真の文明を知っている。

英呈 あなた方は文明国というわけか。

田之倉 先生なら分るはずです。今、我々は民衆にあまり好かれていたとは言えない。

我々の使命に敬意を払う市民もいる、しかし、係わりあいを恐れる。

英呈 ……いかがです？蓮の汁粉を食べませんか？

田之倉 良いのですか？

英呈 どうぞ。

田之倉 ……この蓮の汁粉は奥深い味です。ねっとりとした桃色の艶、馥郁とした香り、これは我が国にはありません。

英呈 ……妻の好物でした。いや、どうぞ、遠慮なく。幸い、あなたはそれを悦んで下さる人だ。

#### 間

英呈 不忍池の端に茶屋がありましたね。あのしょっぱい団子が私は好きでした。

和平はいい……そろそろ現実的になれというのでしょうか……

田之倉 そう、現実には動かし難い。

英呈 「スマイス・レポート」ですが、私から言わせると、被害の実情を反映していない面も多々ある。しかしあなた方もそろそろ、客観的調査というものを必要とするはずですよ。

田之倉 もちろん、大いに参考にします。しかし、日本軍によって治安が保証されているにも関わらず、難民は安全区から出ようとしません。いつまでもそんなものがあるから、避難生活が続ける口実になっているのではないのでしょうか

英呈 実際、市民のほとんどが無収入で生活のほとんどはヤミ物資、または施しだ。

雇用は最低。あなたがたのシステムも、機能しているとはいえない。

田之倉 確かにそれは事実です。しかし、いつまでも施しというわけにはいきません。現在、難民区と収容所を閉鎖してようやく人が移動した。

英呈 やれやれ：

田之倉 たとえば、市内の建物被害について、軍事行動によるものは1%であり、放火が67%。放火は主に中国軍のしわざだった。残りの強盗となると、今やほとんど難民同士の犯罪でしょう。強姦に関しては明らかに届出が激減している。

英呈 なるほど数は確かに：実情は届け出自体が減っているだけです。訴えても恥をかきただけだ。集められた女達は、結局、クリーニングと慰安婦の両方をさせられました。

田之倉 そのような犯罪的な行為が行われているのなら、文書での証拠があるはずだ。

英呈 いえいえ、彼女らの誰一人としてリストアップされていませんし、帰ってこない女たちの存在証明はどうやってするんです？

田之倉 冷静になりましょう。

英呈 私は冷静です。農業調査はお読みになりましたか？今や、農業収益は四分の一。市内はもとより、この地域全て飢えろ、という事らしい。死者の数だつて周辺部を入れたらこんな：

田之倉 農村のように、残党狩りが必要な地域は、復興が遅れざるを得ません。し

英呈 かし今後、必ずや安定します。それには中国人の協力が要る。

でしたら今すぐに、建設的な援助を全力で与えたらどうです？生きる糧がなければ、市民の善意や協力など生まれるはずがありません。都市の食料、医療、雇用、電気、水道、ゴミ処理、なにより日本軍を取り締まる警察を担保したらどうです？宣伝など、どうでもよろしい！

田之倉 ……

英呈 失礼、つい声を荒げました。あなたに全ての責任は負えない。しかし……

田之倉 どうぞ、おっしゃって下さい。あなたの言葉が必要です。

英呈 何故こうなったのか？…降伏後の日本の占領さえ無ければ、ここまで酷くならなかったのです。なぜなら、情けないことに組織的な市街戦は行われなかった。

田之倉 守備隊は何を？

英呈 逃げたのです。12月12日、日軍に城門突破されてからというものは、市内の中国軍は烏合の衆だった。しかし……しかしあなたの、あなた方の理解は、極めて、歪んでいます。

田之倉 きわめて……貴重なご意見、拝受した。

間

英呈、主人ぜんとして水差しの水を飲む。

田之倉 我々は国の総力を挙げてアジアの責任を取ろうとしているのです。……あ

あなたのこれからの待遇ですが、来月から法務部の臨時代表となります。

英呈 ……なんですって？

田之倉 着任後は、法令文書にはあなたの名が刻印されます。

英呈 やめてくれ…そんなことは…

田之倉 それから、プロフェッサー・リンの名前で全世界に向けて、いかに日本軍の占領政策が近代的で民主的か、レポートを発表して頂きたい。一大キャンペーンだ。

英呈 …偽の政府の奴隷として働けというのか！

田之倉 これは驚いた。あなたにふさわしい仕事をするべきです。従僕ではなく、官僚として。

英呈 いや、従僕でいい！

田之倉 ……よくお考えください。あなた方の政府は南京を見すてた。その占領区で、我々の援助で生きる者が批判をする資格など、本当はないはずで。

英呈 断る！！断じて…裏切り者になれというなら、殺せ！

田之倉 いや、そんな言葉はあなたに似つかわしくない。

英呈 東洋官憲！東洋鬼！

田之倉 Calm down. Keep your head! Professor!

英呈 Shut up! Go to hell!

田之倉 ……ああ、それから妹さんですが、上海の陸軍病院へ移します。あなたも一度、ここを出て上海へ行かれてはどうですか？お兄さんともお会いに…

英呈 ……漢奸！売国奴！…

田之倉 我々は同文同種の民族であり、日本とシナはともに歩むのです。勝利とは、勝って勝って永遠に勝ち抜くことです。

英呈 ……同文同種、同文同種などは…

田之倉 ……では、最後の晚餐をご用意頂こうか。プロフェッサー・林。

田之倉、去る。英呈、苦痛にさいなまれる。突然、茉莉の歌声。歌うように包丁研ぎの声をまねする。楽しげでさえある。

茉莉 磨 前力 子 来！ 金強 菜刀！（*Mao jianzi lai! Qiang caidao!*）

英呈、狐につままれたように茉莉を見る。

英呈 小姐……

茉莉 ……気が狂ったと思った？

英呈 ああ……刃物研ぎの真似なんかしてどうした？

茉莉 磨 前力 子 来！ 金強 菜刀！（*Mao jianzi lai! Qiang caidao!*）  
英呈 こりゃ……巧いもんだ。

茉莉 病院で、午後になると必ず外を面白い刃物研ぎ屋が通りかかるの。それを毎日聞いて、今日も生き永らえたと……何でも研ぐよ！包丁、ハサミ、刀、槍でも鉄砲でも、鎌と槌も、星も……

英呈 鎌、槌、星……？

茉莉 そう赤い星……私も行くはずだった。延安。

英呈 延安の毛沢東……

茉莉 でも、戻ってきた。南京へ。なぜかしら？

英呈 小姐……

茉莉 でも、これもよいのかもしれない。王飛、姉さん、私の子も。血も流れ出てしまつて……

英呈 もういい、もういいんだよ。

茉莉 毎日、アヘンが切れると失神。それでも痛むのよ体は。骨がカタカタ、カタカタ……私の肉を抜けようとする。きつと骨は離りたいのよ。この膿で汚れた……  
： 肉体……

英呈 小姐、小姐、お前のせいではない。

茉莉 死のうとして、けれど、死ぬ力もない。栄養失調でカサカサに乾いて……流す血さえも少なくなつて……きつと死ぬつていうのは乾くことね。生きるつていうのは濡れて水があるつていうことじゃないかしら。私、死ぬ力さえもなくて……  
： だけど、今はもう……これを運命だとは思わないわ。

英呈 そうだ、宿命などと言つてはいけない……そんなものにあやつられるな。

茉莉 運命など豚に喰わせろ！

英呈 己の恐怖にとらわれてはいけない……最悪の運命を呼び寄せる

茉莉 恐怖が呼ぶの？

英呈 そうだ……小姐、やはり上海の病院へ行こう。ここにいるのはつらからう

茉莉 そうつらい。眠つていても立ち上がつてくる、あの恐ろしい時間が。それはどこに

英呈 いても同じ。だったら、上海に行ったって同じよ。ここで治すわ。ここで？

茉莉 そうよ。ここには皆が居るのよ。魂となって。それから逃げたりできない。

英呈 それは……大変な仕事だ。

茉莉 仕事、仕事なのよ、私の仕事。南京が癒えていく、その両方が必要なのよ。人も町も血と暴虐に泥なすんだのだから。私というものはこの町でしか治せない。

蓮華が現れ、編み物を始める。

茉莉 こうなる前、……日本製品のボイコットをしたり、デモをしたり……自分達で革命を成功できると信じていた。夢があったのよ、戦うことで何かが変わると。

英呈 お前はよく戦った。今もだ……これからも戦うのだ。

茉莉 そう、これからはずっと、私の代だけじゃなく、後の世代も戦ってようやく抜け出せるのかもしれない。けれどもやつぱりつらい。姉さんと一緒に……死ねば……あれは耐えられなかったのだ、全てが儂くなって、結果は死だ。

英呈 ……

英呈 ……お前たちを逃がしてやれば、私が兄の言葉を聞かなければ……お前たちをこんな目に会わせることはなかった……蓮華……蓮華……

蓮華 英呈、春節にはこの子も生まれるのよ。

英呈 ……ああ

蓮華 私、それまでに仕上げるわ。

英呈 ……アマにやらせてはどうだ。

蓮華 嫌よ、自分でするわ。パリで見たでしょ、可愛らしいベビーベルト、シューズ、ドレス、みんな私が作るのよ。それに、この子は洗礼を受けた方がいいわ。教会に行きましょう。

英呈 そうだ、どこへも行かぬと中尉に言おう。出て行くのは彼らだ。出て行ってもこの大陸に居場所はないさ。これだけの事をして、もとに戻って行けるものではないさ。

茉莉 義兄さん、死なないでね。もう誰も死なないで。

英呈 ああ。死のうとして死ぬことはないさ。生きようとして結果、死ぬかもしれぬが。結果、皆、死ぬさ。

茉莉、歌うように何度も叫ぶ。

茉莉 磨 前力 子 来！ 金強 菜刀！（*Mao jianzi lai! Qiang caidao!*）

溶暗・茉莉の声が木霊している。

第七場・勝手口

英呈が現れ、手には菜切り包丁。砥石で研ぎ始める。林田が現れる。

林田 中尉はどこだ・

英呈 ……上海へ。

林田 ……先ほど、刃物研ぎ屋の声が聞こえたが…

英呈 さあどうか…

林田 研いでもらいたいものがあつた…

茉莉の声が二階から聞こえる。

林田、サーベルを抜く。さびついでいてなかなか抜けないが、ようやく抜く。英呈は場を開け放つ。林田、砥石でサーベルを研ぎだす。

林田 ……惨い目に会われたと聞いた。

英呈 ……

林田 良家の娘さんが、気の毒に…慰安所にも堅気の娘がおるようだが、どうすることもできん。…もし宜しければ回向をさせてくれんか？

英呈 えこう？

林田 弔いだ。仏教徒ではないのかね？

英呈 生憎…

林田 いまさら…詫びなど無駄かね。わしはシナ人が嫌いだ。ですから、先生を

拷問することに躊躇はなかった。だが、やれと言われねばやらぬ。理由がないからだ。

英呈 理由、殺す理由……しかし、妻が殺される理由などなかった！

林田 いや全く……ただ白骨のみぞ残りだ。わしもあんたもいつかは死ぬ。

英呈 全く……理解しがたい。あなた方を。

林田 どれ……（刃を見る）

英呈 あなたのものですか？

林田 いやシベリアの預かりものだ。……意外に脆いものだ。

英呈 ……日軍は乱斫らんしゃくをする。一太刀では済まぬから何度も振りまわす。

林田 敵が怖いのだ。息が絶えるまで止まらん。

英呈 そう、まず一刀、魂切れる叫び。二刀で、微かな喘ぎ、三度目でようやく静

寂……銃剣ならばブスウ……と……

林田 わしも初めての兵役で敵を殺しました。日本は、徴兵というものが……ご存  
じか。兵隊は貧乏も金持ちも二等兵、食うのも寝るのも殴られるのも一緒。  
わしらはずっと飢えていて、食べぬから大陸へ溢れ出た。食べぬからさ。

英呈 それなら、そうと云えばいい。

林田 それが不思議にも、出兵だの事変だのと名がついた。国家の非常時なれば  
仕方ないと。わしはその頃、まだ修行の身で、女も知らぬ内に人を殺めた。  
一度、知ってしまえば後には戻れぬ。ブスウと突いて敵を追いかけてまわすのは  
愉快。戦友が敵に撃たれりや、何くそと仇をとる。後悔するのは全部終わった後。  
覆水盆に……

英呈 私も、あれを、あの虐殺を知らぬ前に還れない。

林田 そうやって、日本男子ならば、国の為に殺生せねば生きられん。将校だって家に帰れば、瓦屋だったり、先生だったり。私とて平和主義者ですよ。戦争さえなければこんなことには。

英呈 平和主義者はそうやって現実を、戦争を受け入れる。私も、そうでした。そして、今を甘んじています。

林田 一生、殺生をし続ける人間は罪深い。これを何とかせねばならない。……だから、日本人は皆、この戦いの目的は善だと信じております。出征は名誉だと。

英呈 今、何か聞き損じた……

林田 もしも武運つきて戦死したら、死に損ではない。今日までの悪は消えて、尊い世界へ往生できる。と兵に諭しております。

英呈 そんな迷信、いや嘘をよくまあ……イギリス以上だ。

林田 分らぬともよいのですが、なんにせよ諸行無常です。それで片をつけてきた。騙されたようだが、我々は天皇陛下の赤子ですから、どんなにひどいことになつても、やはりそれはケロリと天皇陛下の御為ということなのです。今度の戦では食えぬだけでなく、八紘一字と云いだした。シナも朝鮮も満州も現人神のもとにまつろはしめて、共に王道楽土を作りましょう。

英呈、包丁を握りしめている。茉莉が現れる。竹を打ち鳴らして、  
研ぎ屋の声音を歌っている。

茉莉 磨 前力 子来！金強 菜刀！

林田 なんだ、刃物研ぎはあんたか………いい調子だ………すまんが………手を、  
見せてくれんか。

英呈 手？

林田 指がちゃんと五本ありますか？

英呈 もちろんです。

林田 ……頼む。手を見せてください。

林田、あつげにとられる英呈をどけて、茉莉に近づき手をとる。  
茉莉、目を閉じて無感動にされるようにしている。

林田 ありますな、ひい、ふう、みい、よお、いつ、……ああ、長い指だ。

林田が指を手繰る。英呈、包丁を握りしめ、振り上げようとした  
刹那、茉莉がふいに手をひっこめ、竹で突然軽くはたく。

林田 ……刃物研ぎはどんなのを研ぐんです？

英呈 何でも。包丁、ハサミ、刀に………

林田 鎌と槌もだろ？

英呈 ……

林田 星もありましたな、赤い星。

英呈 糞……

林田 ……先生、どちらです？あなたか？娘か？

英呈 何の……

林田 どちらか助けましょう。これも慈悲です。

英呈 もちろん小姐を……

林田 では、抗日分子のあなたと中尉は通じていると、証言しろ。

英呈 悪くない……悪くない、少なくともひとつは仇がとれる。

林田 さすが先生。わしは、シナ人よりも憎いものがある。ボルシェビキだ。

英呈 こんなところで足元をすくわれるとは……しかし、一人ではない。

林田 何を言っているんだ？

英呈 気にしないで。一つ、反論を……先ほど云われた楽土、あなたが少しも信じているようには思えません。むしろ、何かに云わされている、そう思えます。

林田 ……何かとは？

英呈 圧迫、なにかの力ですが、この辺で……そろそろ夕食の支度があります。

林田 律儀ですな。それで肴は何かね？

英呈 いつもの……（嘔う）小姐を病院のドクター・ウイルソンに預けてください。今すぐ！

林田 鬼の居ぬ間に。

英呈 ……この娘は希望です。きっと、血を繋いでくれる。どこに行つたとしても、中

国人はやはり中国人ですから。

林田 請け合おう。

英呈 小姐、起来！(Qi lai!) 快走！(Kuai song)

茉莉 ……英呈

林田、茉莉を連れて去る。

英呈 蓮華……蓮華……

溶暗。英呈、勝手口から書齋へと戻っていく

## 第八場

書齋に、縄が垂れている。現れた英呈、そして、うろうろと椅子を動かす。その上に建  
つが、垂れている縄に届かない。結局、ぎりぎりに届く。

英呈 こんなへまをするとは……背がもう少し高ければ……

蓮華、現れて心配そうに椅子に座る。

英呈 お前のところへ行くこうつて言うんだ。なぜ、そんな顔をする。

呆れ顔の蓮華

英呈 待ってる。すぐ済むからな。そうだ、忘れていた。

英呈、遺書らしきものを出して、そばに置く。

英呈 中尉も運のつきだ。こういう場合、何か万歳を叫ばなくては：しかし、もう国民党はいやだ。毛沢東もいやだ。何もない……：そうだ。孫逸仙（孫文）先生！万歳！

椅子を蹴った瞬間、田之倉が一人慌ただしく現れる。

旅装である。英呈はみつともなく床に転がる

田之倉 何をしている？

英呈 ……私の人間として残された権利を：

田之倉 しかし、まるで自殺でも謀ったようですな。

英呈 何故笑う？何がおかしい？わしを馬鹿にする気か？

田之倉 まさか今頃……死ぬわけではない。

英呈 うるさい！私の勝手だ！私に残された権利だ！

田之倉 それなら結構。先生、これにサインを。

英呈、書類を渡され、サインしようとして止まる。

田之倉 どうしました？

英呈 これは……

田之倉 新政府への任官願いと、誓約書、エトセトラ、エトセトラ……

英呈 できません。

田之倉 時間がない。陸軍の邪魔が入る前に、一旦、上海へ移動する。すぐに支度を。

ふと、田之倉、英呈の遺書に気がつく。英呈、拾おうとするが先に拾われる。

英呈 返しなさい。

田之倉 駄目だ。

英呈 遺書なんだ。

電話が鳴る。しかし、田之倉は出ようとしなない。電話は一旦切れるが、又鳴り出す。二人、睨み合う。林田が現れる。椅子に座り、しばらく二人を見ている。

林田 ……どこへ行く？

田之倉 ……忙しい。

林田 あんたは陸軍司令部から南京退去を通告されたようだな。

田之倉 ……私に直接、辞令を下せるのは、内閣だけだ。

林田 ほう……それで、どこへ行くと聞いとるんだ。

田之倉 答える義務はない。

林田 あんた、知りたいと言っただろう。死人について。

田之倉 ……もう貴殿の役目は終わった。

林田 済んでない。まだだ。

林田、いきなり田之倉を殴る。

田之倉、反撃しようとして、ピストルをつきつけられる。

林田 続きを全部聞け！

田之倉 糞……

林田 これが知りたかったはずだ。

林田、通信紙を見せる。田之倉、じっと見る。

田之倉 「歩兵第六旅団命令 残敵掃討実施に関する注意事項」

林田 捕虜に関係する部分だ。読め！

田之倉 命令するな……

林田、一撃する。

英呈　なぜ、日本人はやたら頭を殴るのか？私も捕虜の間、頭を殴られ通しだった。

林田　云うこと聞かすには、こうやるに限る！新兵なんぞは、殴られる為にいるようなもんだ。おい！読め！

田之倉　「男子青壮年は全て、敗残兵または便衣兵とみなし、すべてこれを逮捕監禁せよ。青壮年以外の敵意なきシナ人民、に対しては寛容の心をもって接し、皇軍の威風に敬仰させよ」

林田　それが手前の必要なもんだ。分かっただろう！

田之倉　全て、逮捕監禁して：どうなった？

英呈　ああ、そこからはこうだ……便衣兵とされた私はトラックにのせられ、針金で、十人ずつ繋がれた。そして西大門につくと……長い機銃の音を聞いた。百人ほど固められ、薄暗い門をくぐると、後ろから又百人が我々を押し込んだ。前のものは出たかかわらず、後ろはぐいぐい。押し出され機銃が薙ぎ倒す。

打たれたものはコロコロと転がる。落ちぬものは兵が突く。私は致命傷を負わずに落ちた。まだ息のあるもの……呻き声、血と汚物から這い出して……歩いていたら、兵士に声をかけられ、それからはひたすら荷物や死体を運び続けた四カ月。そして私は家に還った。

田之倉、茫然としている。

田之倉 しかし、理由が分からない。なぜだ？なぜ捕虜を……

林田 参謀から捕虜をとらぬ、という司令が出ていた。

田之倉 取らぬ？

林田 そうだ取らない。

田之倉 取らなければどうする？

林田 南京攻略後半戦、白旗あげて続々と投降する兵、数知れず。「逃がす

か？」「殺すか？」

田之倉 どうしたのだ？

林田 知らぬ。他の連隊の捕虜の運命も全くあずかり知らぬ。ただ、「捕虜は取

らぬ」それは全軍において、司令部からの命令だった。

田之倉 ……信じられぬ。

林田 ではあんたならどうする？

田之倉 ……

林田 誰もが作戦命令を遂行した。

田之倉 しかし……

林田 あんたが調べたらいい。そんなに死人の数を知りたきゃ、背囊しよって歩いて

みやがれつてんだ。あの、蘇州の泥の中を、馬に砲車を引かせ！そうすりゃ、

分かる。既に我々の兵は飢えて、恐怖に震え、死屍累々の中国大陸を、舐

めるように這い上ってきたんだ。口ぐちに司令官が云った。南京さえ陥とせば、蔣介石は必ず降伏する。完膚なきまでに叩きのめせば、この戦争は必ず終わる。そうすればお前たちは内地へ凱旋……

田之倉、林田を撃つ。林田、倒れる。

田之倉 そのような事はあってはならない。断じて、あってはならないのだ。

林田、意識が遠のいていく。

蓮華、現れて林田に近づいていく。

林田 手を……

蓮華、手を差し出す。林田、絶命する。

英呈 なぜ殺す？

田之倉 あなたならお分りでしょう。

英呈 口封じ？

田之倉 いえ、違いますよ。こんな男を殺して……何になる。

英呈 ではなぜ？

田之倉 この日本人を……日本人として容認するならば、我々は残虐で、法を守らず、

非戦闘員殺害も武勇とし、それを大々的に報道し名誉と奉ずる特異な民族ということになりませんか？

英呈 違いますか？

田之倉 違います、断じて。我々はそのような……

英呈 あなたも……やはり……

田之倉 プロフェッサー！

英呈 やはり同じです。このわけの分らぬ世界では、千万の人が理由もなく殺され、愛するものを失い、正義の為に虐げられる。

田之倉 何もなかった。断じてそのような……

英呈 それは誰の目にも映らず消えていく。無意味に、その死さえも無意味に。それを見ようとしないう時、人々は再び、何度も殺されるのです。

田之倉 ……運べ……早く運べ！

英呈 いつかあなた方も大陸を去るでしょう。その時、この虐殺の兵は、どのような市民に戻るのか……戻れるのか……私には分らない。ケロリとして生きる為にこそ、あなた方には天皇が要るのかもしれない。

田之倉 運べと言っているんだ！

英呈 幸いに、私に必要ありません。

田之倉 黙れ！

英呈 いえ、これだけは……

田之倉、銃を突きつける。

英呈 これだけ……捕虜の間、私はたくさん屍を運びました。まだ、死に切れずに

生きている同胞もお構いなく、私はどんどん運んだ。動かねば殺される。助けてくれと訴える目、しかし、私は運び、積み重ね、ガソリンで燃やされる同胞を誰一人、救いませんでした。ですから、その息のあった軀を今もこうして感じるのです。そう、何もできなかった。こうして語る事以外……私を糞り弄ぶあなたもまた、奪われていく人間なのです……

田之倉、引き金を引こうとする。

とたんに電話が鳴る。

田之倉 ……閣下、まもなく報告書は完成致します。南京占領に関する……

英呈、蓮華と手を繋いで立ち上がる。

英呈 失って初めて、真にそれを獲得するということがある。私は還った。

蓮華 英呈……

英呈 ……失って初めて、我々は多くのものを学ばねばならぬ運命にあるようである。  
蓮華……

二人 奉天、満州、上海、南京、重慶、ノモンハン、ビルマ、シンガポール、フィリピン、

ガダルカナル、サイパン、硫黄島、沖縄、広島、長崎、東京……

二人は手を携えて立ち去ってゆく。田之倉は電話に向かって話続けている。赤い南  
京城の城壁が浮かび上がり、暗転。

幕

\*堀田善衛著「時間」「夜の森」のエピソードに、「クララ・ジェスフィールド公園で」のストーリーを重ね、戯曲と小説世界の融合を試みた。

他に「スマイス報告」「偕行社・南京戦史」「南京事件資料集」「教化研究・資料・真宗と国家」(真宗大谷派教学研究)より多数引用。